鶴岡市

藤島地域振興計画（案）

2019 年度▶2023 年度

まちづくり未来事業名入り

２０１９年３月　鶴岡市藤島庁舎

目　　次

１．計画の策定趣旨…… 1
２．地域の特性・概要…… 2
３．地域のこれから目指す方向性…… 4
４．施策の基本方針…… 5
基本方針１　「豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現」…… 5
基本方針２　「歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進」…… 5
基本方針３　「くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築」…… 5
５．具体的な展開方策…… 6
基本方針１－（１）藤島発！！鶴岡の米プロジェクト…… 6
基本方針１－（２）藤島発！！園芸作物拡大プロジェクト…… 7
基本方針１－（３）食農教育等を通したふるさと意識の醸成…… 8
基本方針１－（４）庄内農業高等学校・首都圏大学との地域連携の推進…… 9
基本方針２－（１）藤島歴史公園「Hisu 花」を活用した藤島地域の魅力発信… 10
基本方針２－（２）住民協働による藤棚等の適正な維持管理の推進…… 11
基本方針２－（３）伝統芸能の育成と地域コミュニティづくり…… 11
基本方針２－（４）ふじの花による観光振興の促進…… 12
基本方針３－（１）自立分散型インフラ整備の推進…… 13
基本方針３－（２）子育て世代から選ばれるための支援の充実…… 14
基本方針３－（３）健康でいきいきと暮らせるしくみづくり…… 14
基本方針３－（４）地域防災力の強化…… 15

参考資料
1. 藤島地域の地域振興方針（計画策定イメージ）…… 16
2. 藤島地域の統計概要…… 17
3. 地域別人口推移…… 18
4. 世帯数・男女別人口推移…… 18
5. 年齢別人口…… 19
6. 人口動態の推移（藤島地域）…… 19
7. 高齢化率の推移…… 19
8. 地域別出生数の推移…… 20
9. 地域別婚姻数の推移…… 20
10. 産業別就業者数割合の推移（藤島地域）…… 21
11. 専兼業別販売農家数の推移…… 21
12. グラフで見る各種データ推移…… 22

１．計画の策定趣旨

鶴岡市では、合併後も各地域で築かれてきた地域特性や地域固有の資源を生かしたまちづくりを進めるため地域庁舎ごとに平成２０年３月に地域振興ビジョンを策定しました。

その後、地域振興ビジョンの見直しを行い、平成２５年に「藤島地域振興計画」として新たな地域振興に資する計画を策定し、「農業関連資源を生かした地域振興の実現」、「ふじの里づくりの推進」の２つのテーマを掲げ、計画に基づいた個別プロジェクトにこれまで取り組んできたところです。

しかしながら、社会や地域を取り巻く状況の変化、特に少子高齢化に伴う人口減少が著しく進行しており、地域コミュニティの空洞化、基幹産業である農業の担い手不足などが一層拡大していくことが懸念されます。こうした課題を改めて捉え直し、現在の地域の実情に照らし合わせた新たな藤島地域の地域振興を総合的に進める必要があることから、先に策定した「藤島地域振興計画」の見直しを行い、「新・藤島地域振興計画」を策定することといたしました。

このたび策定した「新・藤島地域振興計画」は、藤島地域の資源や特性を生かした地域振興を更に推進していくため、地域の目指す方向と重点的に推進する取り組みについて明らかにするものです。

計画期間は２０１９年度から２０２３年度までの５年間とし、この計画に基づき、藤島地域の更なる振興・発展に向け、地域振興推進事業を展開しながら、地域の特色を生かした活力ある地域づくりを推進していきます。

２．地域の特性・概要

藤島地域は、日本有数の穀倉地帯庄内平野のほぼ中央に位置し、古くから稲作を基幹産業として発展してきました。地形はほとんどが平野部で、自然環境の面からも農業に適した環境にあり、地域面積の６割以上が農地として利用されています。地域の中央部を藤島川が貫流し、流域には約 3,900ha の肥沃な耕地が広がっており、庄内平野を代表する美田地帯をなしています。

また、県立庄内農業高等学校、県の農業総合研究センター水田農業試験場、庄内総合支庁農業技術普及課、米倉庫群である全農藤島倉庫等多くの農業関係機関が集積し、歴史的にも庄内農業を先導する拠点として中心的な役割を担ってきた地域であり、意欲的で先進的な農業者が多く存在している地域でもあります。近年では、ブランド米として全国的に人気の「つや姫」や新品種「雪若丸」の誕生の地としても知られています。

しかし、農業、とりわけ米作りを取り巻く環境は一段と厳しさを増しており、農業経営に対する意欲の衰退や後継者問題など、農業離れが一層進んでいる状況となっています。このような中、商業、工業、観光等との連携を図りながら農業の魅力を高めるとともに、高収益が見込め、農業経営の安定化が望める園芸作物などを取り入れた複合経営への転換を進め、農業の活力回復や農業者の意欲高揚につなげていく取組が重要となります。

藤島地域には、先駆的な農業地帯としての特徴のほか、藤島城址の長い歴史や各地に残る獅子踊りなどの伝統芸能、地域の花として定着している「ふじ」など他地域にも誇れる地域文化や資源等が多くあり、これらを活用した地域振興に取り組んできました。

特に「ふじ」は、旧藤島町時代から、まちづくりの基本理念に「日本一ふじの里づくり」を掲げ、公共施設への藤棚の設置やふじロードの整備、ふじの花まつりの開催など、これまでの各種取り組みにより「ふじ」そのものが藤島地域の地域資源の一つとなっています。

また、平成２７年７月に「ふじ」をテーマとした藤島歴史公園「Hisu 花（ヒスカ）」が開園し、新たな藤島地域の地域づくりのシンボル施設として活用を図っており、ふじのオフシーズンにも公園内にイルミネーションを設置するなど、通年での魅力づく

りに取り組んでいます。

それから、公園に隣接する歴史的文化遺産であり山形県有形文化財である旧東田川郡役所、旧東田川郡会議事堂を有する東田川文化記念館は、文化活動や生涯学習事業の拠点施設として活用が図られていますが、公園が開園してからは、公園と一体となる新たな魅力づくりにも取り組んでおり、交流拠点としての展開も進めているところです。また、地域内１０ヶ所に五穀豊穣を祈願する勇壮な獅子踊りや神楽が保存されていることや稲作地帯の生活様式の一端を伝える藁文化も継承されていることから、それらの伝承に努めるなど歴史と文化が息づく地域づくりを進めています。

藤島地域には、地域農業を担う人材を育成する教育機関として庄内農業高等学校があります。庄内農業高等学校は、明治３４年の創立以来、一世紀を越え、庄内地方唯一の農業高校として農を通した教育を実践し、優れた人材を様々な分野に輩出するなど、庄内地方の農業の発展と地域の振興に大きく貢献してきました。農業を基幹産業として発展してきた本市にとって、庄内農業高等学校は、地域のシンボル的存在であるとともに誇りでもあります。しかしながら、昨今の少子高齢化による農業従事者の減少や後継者問題などが深刻化しており、庄内農業高等学校でも近年、生徒数が減少傾向にあり、高校再編などが懸念されているところでもあります。

また、高等教育機関との連携ということでは、藤島地域をテーマに１０年以上学生と共に調査を実施している首都圏大学との地域連携事業も途切れることなく継続しており、首都圏での農産物ＰＲ等の足がかりになるなど、首都圏交流の拡大にも努めています。

藤島地域は、豊かな田園が広がる美田地帯である一方で、庄内平野東縁断層帯に位置しており、有事の際の深刻な被害が懸念されます。また、藤島川と京田川の二つの河川が貫流する地理的な特性から大雨による河川の氾濫が発生しやすい地域でもあり、昨今の温暖化に伴う気象状況から頻発するようになった大雨災害への対応など、災害に対する抜本的な対策が喫緊の課題となっています。

３．地域のこれから目指す方向性

藤島地域は、多くの農業関係機関・団体などが集積し、先進的な農業に取り組む意欲的な農家が多く、特に稲作においては、庄内地方の農業の中心的役割を担ってきた地域です。このような地域特性を生かしながら、今後も重要な食糧生産地の一翼を担い、また、安全で良質な、「人と環境にやさしい農業」を実践する地域であることを強みに、農業を核とした地域づくりを推進します。

これまで築き上げてきた豊かな田園文化を継承しつつ、稲作に新たな園芸作物などを取り入れた複合的農業経営への転換を図り、農家の所得向上をめざした取組を行います。

藤島地域がこれまでまちづくりに活用してきた「ふじ」や伝統芸能である「獅子踊り」など、地域が育んできた貴重な歴史と文化を次世代にしっかりと継承していく取組を進めます。また、藤島歴史公園「Hisu 花」を新たな資源として活用し、市内外の交流の拡大を図ります。

依然として進む少子高齢化に伴う人口減少を見据え、地域内の生活基盤を再構築する取組や高齢者がいきいきと暮らせる仕組みづくり、地域特性に即した防災力の強化など、住民が安心して生活し、暮らしやすさを実感できる施策を展開します。

これらを具現化するため、藤島地域の地域振興の基本方針を１．「豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現」、２．「歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進」、３．「くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築」とし、この３つの柱を基に各種施策を設定し、地域活性化を進めます。

４．施策の基本方針

基本方針１　「豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現」

人と環境にやさしい農業の取組を継続し、安全・安心な農産物の拡大と産地ブランド化、地産地消の取組を進めます。

稲作を基幹としながら園芸作物の生産拡大を図り農家所得の向上をめざすプロジェクトを展開します。

農業が縁となり、これまで築きあげてきた首都圏大学との連携や優れた人材を輩出し、地域の農業を支えてきた庄内農業高等学校などの教育機関との連携を強化します。

基本方針２　「歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進」

藤島地域を象徴する「ふじ」と獅子踊りなどの「伝統芸能」は、今後も重要なまちづくりの資源と捉え、地域に活力を生み、住民が誇りと愛着を持てる地域づくりにつなげていくとともに、地域内外にその魅力を発信し、交流人口の拡大と賑わい創出を図ります。

また、ふじのまちのシンボル施設として整備した藤島歴史公園「Hisu 花」と隣接する東田川文化記念館を活用した地域づくりの推進やそれに関わるボランティアの育成などに取り組みます。地域の資源や特性を生かした取組を一層発展させながら、多様な人々の関わりによる歴史と文化、交流が彩るまちづくりを推進します。

基本方針３　「くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の再構築」

この地域に住みたいと思えるような、暮らしやすさを実感できる生活基盤の再構築に向けて、若者世代から選ばれる地域をめざした住環境の整備や子育て環境の充実を図ります。

地域公共交通のあり方など高齢者が社会参加しやすく、いきいきと充実した生活を送れるような仕組みを地域と協働で検討していきます。

また、庄内東縁断層帯や藤島川と京田川の二つの河川が貫流する地理的な特性にあることから、地震、大雨災害など防災機能の強化や地域防災力の充実を図ります。

基本方針１－（１）　藤島発！！鶴岡の米プロジェクト

保有する農業関連資源や有機認証のノウハウなどをフルに活用して、作る人(農家)と食べる人(消費者)双方で地域の農業を支える仕組みを構築し、国内屈指の良質米産地として、地域の物語を付加した産地のブランド化を推進します。

○主な施策

・人と環境にやさしい農業推進事業

①作る人食べる人双方で支える地域農業

藤島地域で取り組んできた「人と環境にやさしい農業」を今後とも推進し、更に発展させるため、鶴岡市が有機農産物や特別栽培農産物の認証機関であることを生かした産地ブランド化や流通拡大を図ります。加えて、若手農家等への技術支援を行い、地域農業の活性化とイメージアップを図ります。

また、低コスト・省力化稲作を実現するため実証展示を行い、米価下落、規模拡大にも適応できる稲作技術の確立を目指します。

・オーガニック・エコ農産物産地拡大事業

②ＪＡＳ有機農産物・特別栽培農産物の拡大

藤島地域における有機栽培や特別栽培の更なる普及拡大を目指します。特に技術力の高い有機農業者を総合的にマネジメントできる有機農業エンジニアに育成し、新規取組者等への技術支援を行います。また、除草技術を確立するための実証圃の展示を行います。

③安全農業経営体の育成

食品安全、環境保全、労働安全等の持続性を確保するための工程管理である農業生産工程管理（ＧＡＰ）は、作業環境や経営の改善につながる取り組みであり、中でも山形県版ＧＡＰは約５０項目の点検項目で取り組みやすいことから、藤島地域のすべての農家が県ＧＡＰに取り組むことを目標に、地域ぐるみで作業環境や農産物の安全性確保に対する意識を向上させ、藤島産農産物のイメージアップにつなげます。

④良質堆肥の生産及び農地還元

消費者から信頼される農産物を安定して生産するためには、水田や畑の土を健康に保つことが基本であることから、耕種農家と連携し、地元家畜糞から生産される良質な堆肥の施用を推進します。

基本方針１－（２）　藤島発！！園芸作物拡大プロジェクト

農業経営の安定化に向け、枝豆などの土地利用型園芸作物を振興して水田における稲作との複合経営を推進します。複合経営への転換を促進するため、地域全体で複合経営を可能とする広域の園芸作物の集出荷施設の整備や生産性向上のための機械導入などを支援します。

○主な施策

①枝豆作付５０ha の実現と茶豆ブランドの確立

藤島地域は、大豆の作付面積が大きく大豆栽培のノウハウもあることから、栽培方法として類似している枝豆を最重点作物として推進します。また、「だだちゃまめ」に次ぐ「茶豆ブランド」の確立を目指して、現状２４ha から５０ha へ作付面積の拡大を図り、高品質に向けた取組を強化し、水稲との複合経営による農業所得の向上を目指します。

②露地ネギ、軟白ネギの生産振興

重点作物として露地ネギ、軟白ネギの生産振興を図ります。露地ネギは８～９月収穫の夏ネギを強化し、農業所得の向上を図ります。また、軟白ネギは農閑期に育苗ハウスを有効活用できるため、冬期間の収入増を見込める作物として取組を強化します。

③集出荷施設の整備と作業組織の育成

・園芸作物拡大事業（集出荷施設）Ｈ32～

藤島地域の特徴ともいえる稲作依存の単作経営から脱却し、園芸作物等を取り入れた複合経営への転換を進めるため、地域全体をカバーする共同利用の集出荷施設の整備をＪＡと共に推進します。

また、集出荷施設の整備を機に枝豆の作業組織の育成にも取り組み、効率的かつ安定的に作業を委託できる体制づくりを推進します。

④農産物の加工推進

・地域農産物加工推進事業

地場産農産物の加工品開発を推進し、地域産業の振興を目指します。

⑤産直等の活用

・藤島エコタウンセンター管理事業

生産者がこだわりを込めた安全・安心な農産物であることを地元産直でＰＲし、地域内消費量を向上させることで地場産農産物の価値を高めます。

基本方針１－（３）　食農教育等を通したふるさと意識の醸成

学校給食へ新鮮な地元農産物を供給する団体を支援し、地産地消率の向上を図ります。また、食農教育や田んぼの生き物調査などの農業体験学習を通して子どもたちが農業の未来や魅力に関心を持ち、地域への誇りと愛着を育む取組を行います。

○主な施策

①次世代を担う子どもたちの食農教育を通したふるさと意識の醸成

全国の小学５年生は、授業で「米づくり」を学習し始めており、藤島地域では授業に加え、実習で田植から稲刈り、炊飯し食べるまでを学習しています。炊飯実習時には、有機農業者が安全・安心な農作物を生産することの大切さや地域農業の重要性を教えることで、子どもたちのふるさと意識の醸成を図ります。

②水田による環境保全機能の学習

地域及び首都圏の小学生へ田んぼの生き物調査を実施することで、田んぼの生き物の役割や自然資源の有用性について理解を深めてもらい、自然と共生する地域づくりを目指します。

③地産地消の推進

・地産地消推進事業

藤島地域の給食へ野菜を供給している生産者団体の技術向上や原料の安定確保を図るため、新規作物の栽培試験や保冷庫の貸し出しを行います。また、地元産直施設と連携した地場産野菜の安定供給などにも取り組み、更なる地産地消の推進を図ります。加えて、地産地消イベントを開催し、地産地消意識の向上を図ります。

基本方針１－（４）　庄内農業高等学校・首都圏大学との地域連携の推進

庄内農業高等学校と地域、農業関連団体などが連携して、魅力ある学校づくりを支援します。また、大東文化大学との連携により農産物のＰＲなどを行い、地域と首都圏の交流を推進します。

○主な施策

①庄内農業高等学校との地域連携の推進

・庄内農業高等学校地域連携事業

庄内農業高等学校地域連携協議会会員の連携を強化し、地域、関係団体に支援、協力を呼びかけ、庄内農業高等学校の更なる発展と魅力創出を図り、地域振興につながる取組を支援します。

②首都圏大学との地域連携の推進

・首都圏大学・農業農村マッチング事業

大東文化大学社会学部学生と地域の農業者や住民が連携し、地域及び首都圏における農産物のＰＲ等を図るとともに、社会調査交流やイベントへの参加により地域の活性化を推進し、人口減少の抑制や地域の賑い創出を図ります。

山形県水田農業試験場で学ぶ子どもたち

基本方針２-（１）　藤島歴史公園「Hisu 花」を活用した藤島地域の魅力発信

東田川文化記念館を含む藤島歴史公園「Hisu 花」から始まる地域づくりとして、市民が公園づくりや活用を検討できる場を創出します。

また、オフシーズンのイルミネーションの点灯や住民参加の花壇整備などを行い魅力発信に努めます。

○主な施策

・ふじの花のライトアップとイルミネーション等による魅力発信事業

①ふじの花のライトアップとイルミネーション等による魅力発信

ふじの花の開花にあわせたふじのライトアップにより公園の魅力をより一層高めるとともに、ふじの花のオフシーズンにもイルミネーションの設置や地域協働による花壇整備などを行い、公園を核とした地域の魅力発信と交流人口の拡大を図ります。

・藤島歴史公園「Hisu 花」から始まる地域づくり事業

②藤島歴史公園「Hisu 花」から始まる地域づくり

公園の活用を通じた地域づくり活動を推進します。公園の活用促進に関わる人や団体が自らのアイデアを提案できる場を創出し、公園の具体的活用策を具現化していきます。その実現には様々な協力者が必要となってくるので、長年藤島調査に関わってきた首都圏大学の関係者や藤島のファンなども巻き込み、公園発の地域づくりを進めます。

・オープンカフェ用デッキ整備事業
・子ども向け設備等設置事業

③藤島歴史公園の利用、誘客につながる環境の整備

公園の特徴を生かした誘客につながる環境整備と利用者の利便性を高める施設整備を推進し、公園の価値を高めながら賑わい創出を図ります。

・東田川文化記念館リノベーション事業

④東田川文化記念館の魅力再発見と活用

東田川文化記念館の歴史的価値の理解を深めるため、施設内の展示の見直しやリニューアルを検討するとともに、芸術文化活動の拠点として市民が活用しやすい施設となるよう整備を行います。また、地域住民が地域のシンボルとして誇りと連帯感を醸成するイベントなどを開催し、東田川文化記念館の魅力を再発見できる取組を進めます。

基本方針２-（２）　住民協働による藤棚等の適正な維持管理の推進

ふじのまちにふさわしい藤棚の適正な維持管理を推進するため、地域住民、ボランティアなどの住民の主体性を生かした取組や活動を支援します。

○主な施策

①ふじの管理ボランティア団体等の育成支援

・ふじ管理エキスパート養成支援事業

藤棚を管理育成するボランティア団体等が果たす役割が大きくなっています。今後とも見応えのある藤棚等を適正に管理育成するため、ボランティア団体等のスキルアップにつながる取組を支援します。

②ふじのまちにふさわしい藤棚等の維持管理の推進

・ふじ棚の整備事業
・ふじの里づくり事業

地域内には、老朽化が進む藤棚やふじをモチーフとした看板等が多数存在し、更新が必要となっているため、それらを計画的に修繕し、ふじのまちにふさわしい藤棚等の維持管理を推進します。

基本方針２-（３）　伝統芸能の育成と地域コミュニティづくり

市内の伝統芸能の裾野を広げるイベントとして鶴岡伝統芸能祭を開催し、獅子の里「藤島」を発信します。また、伝統芸能の保存伝承にも取り組みます。

○主な施策

①鶴岡伝統芸能祭の開催

・鶴岡伝統芸能祭開催事業

鶴岡市内外の各地に伝承されている「獅子踊り」や「神楽」など、地域の郷土芸能が会する「鶴岡伝統芸能祭」を開催し、伝統芸能のまち「藤島」を発信するとともに、市内の伝統芸能の裾野を広げる取組を推進します。

②伝統芸能の伝承支援

地域外の芸能祭などへ積極的に出演し、研鑽を図るとともに他の伝統芸能団体との交流を促進するため出演費用に対しての支援を検討します。また、伝統芸能の伝承に向けた映像等の資料整備にも取り組みます。

基本方針２-（４）　ふじの花による観光振興の促進

地域内外に発信する「ふじの花まつり」を開催し、ふじの花の魅力が伝わるお土産品等の開発に取り組み、ふじをテーマとした観光振興を促進します。

○主な施策

①ふじの花まつりの開催

地域の資源であるふじの花の魅力を発信する一大イベントとして、ふじの花まつりを開催し、ふじをテーマとした観光誘客を図ります。

②ふじにちなんだお土産品等の開発

・お土産品開発事業

地域内外から多くの観光客が訪れるふじの花まつりにおいて、ふじに親しみを持ち、楽しめるふじにちなんだお土産品やグッズ等の物産開発に取り組みます。

藤島歴史公園「Hisu花」のイルミネーション

基本方針３-（１）　自立分散型インフラ整備の推進

交通ネットワークの充実や商工業振興につながる社会基盤の整備促進に努めます。また、地域公共交通のあり方や宅地供給の支援など地域のニーズを反映した仕組づくりを検討し、魅力ある定住地としての環境づくりに取り組みます。

○主な施策

①高速交通に対応する広域ネットワークの整備促進

日沿道と新庄酒田道路間を最短で結び、広域ネットワーク機能を向上させる鶴岡藤島間道路整備実現に向けた取組を展開します。

②産業振興を図る基盤整備の実現

地域の農業と商工業の振興を図るために工業団地や商業地の供給が求められています。その対応には、藤島地域の市街化区域内の低未利用地の活用が必要であるため、実現に向けた調査事業などに取り組みます。

③定住を支援する住環境等の整備

・定住支援住環境等整備事業

人口減少を緩和し地域コミュニティの安定を図るため、市街地に留まらない住宅用地の供給や市街化区域内の低未利用地の開発、空き家利活用促進など、定住を支援する住環境の整備に取り組みます。

④公共交通空白地域の解消

・長沼・八栄島地区地域公共交通導入事業

公共交通空白地域の解消に向け、地域公共交通のあり方などを調査・研究し、地域のニーズを反映した住民が利用しやすい仕組みを地域と協働で検討します。

基本方針３-（２）　子育て世代から選ばれるための支援の充実

子育て世代から定住先として積極的に選択してもらうために効果的な施策について検証していきます。児童館や保育園などが老朽化が進んでいるため、少子化の進展と子育て家庭のニーズを勘案した施設整備を検討し、子育て環境の充実を図ります。

○主な施策

①「子育て世代応援地域」の実現

藤島地域全体もしくは、その一部地区を「子育て世代応援地域」と位置付け、子育て世代のニーズに対応する効果的な支援策を検討します。

②子育て支援施設・体制整備の検討

地域内の児童数の動向を見据えた保育園・児童館の施設体制の検討が必要となっています。検討にあたっては、中学校の改築を含む「文厚エリア」全体の再整備の可能性も排除することなく、行政、指定管理者のみならず多方面から幅広く意見を聴取した上での整備推進を図ります。

基本方針３-（３）　健康でいきいきと暮らせるしくみづくり

健康でいきいきと暮らせる仕組みづくりとして、グラウンドゴルフなどの生涯スポーツに打ち込める環境整備や誰もが手軽に継続できるウォーキングなどを取り入れ、住民が楽しみながら運動できる仕組みを検討します。高齢者が生きがいを持って暮らし続けられるよう、社会参加の促進や買物弱者対策を進めます。

○主な施策

①生涯スポーツの推進

高齢者でも気軽に行えるスポーツとして人気のあるグラウンドゴルフや生活習慣病の予防・改善効果が実証されているウォーキング等、住民が「無理なく・楽しく・継続して」行える生涯スポーツを推進し、健康増進を図るための仕組みづくりや施設改修等の環境整備に取り組みます。

②高齢者の社会参加の促進

高齢者の社会的孤立を防ぐため、社会福祉協議会等の関係団体と連携し、生きがいづくりと生活利便性の向上を目的とする総合的な外出支援事業に取り組み、高齢者の社会参加を促進します。

③藤島ふれあいセンターの利活用策の再構築

・ふれあいセンター活性化事業

元町地区を対象としたアンケート調査の結果や現在実施している庄内農業高等学校との連携事業を踏まえ、専門家による指導助言や先行事例を参考とし、買物弱者対策と施設の更なる有効活用について、効果的な方策を検討します。

基本方針３－（４）　地域防災力の強化

災害に強いまちづくりを推進するため、共助の基本である自主防災会運営の強化と二次避難所となっている地域活動センターなどの整備、訓練の実施、避難計画の策定などを支援し、地域防災力の充実を図ります。

○主な施策

①自主防災会の育成支援

自主防災会活動については、地域内全体の自主防災力の強化を図るため、先駆的な取り組みを行なっている町内会をモデルに、自治振興会と連携協力のもと、各自主防災会での防災訓練の実施、また、高齢者等の避難困難者等を考慮した避難計画策定と防災資機材整備を支援します。

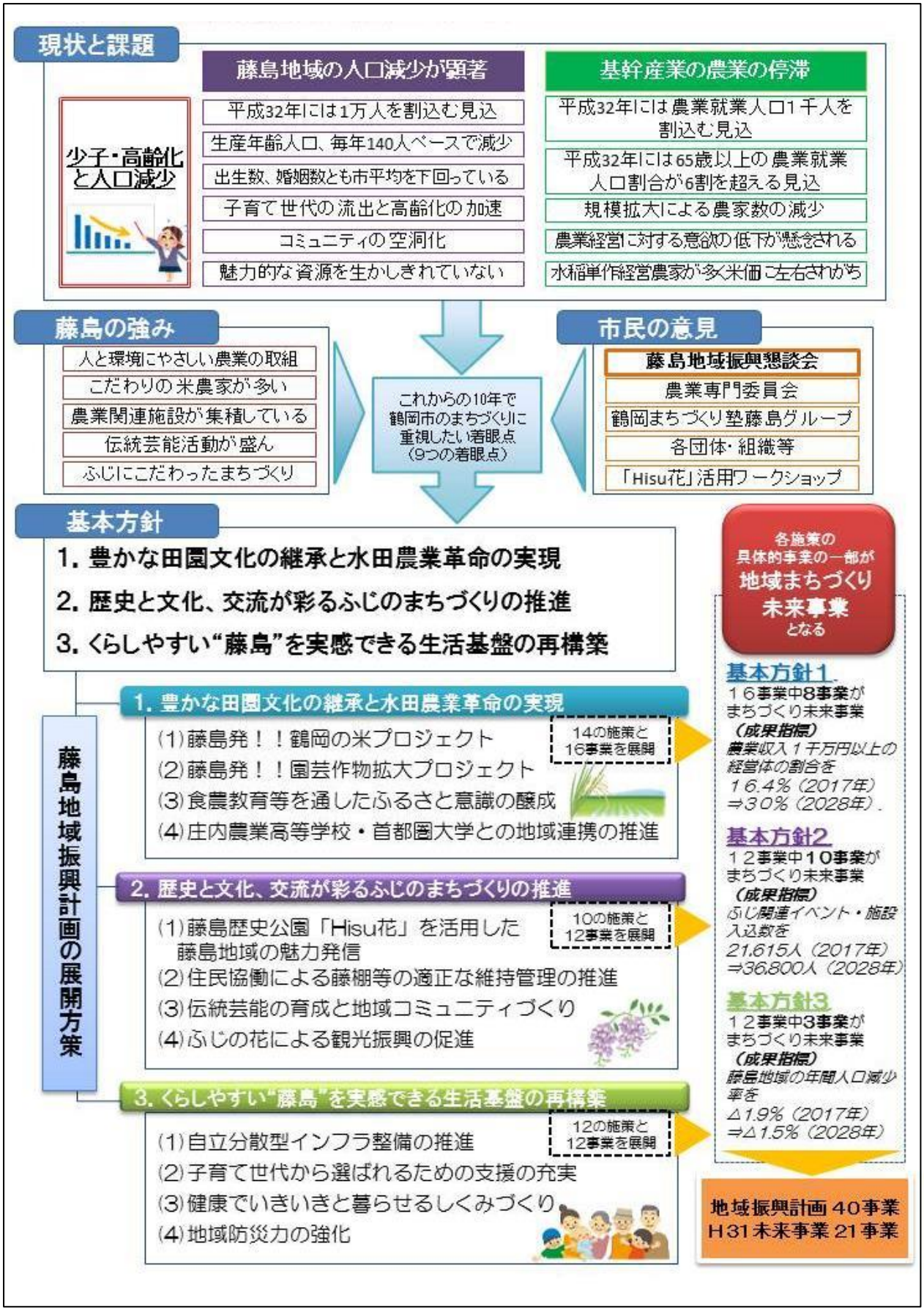
②地域防災拠点の機能充実

災害時の的確・迅速な対応と防災基盤強化を図るため、二次避難所となる地域活動センターの設備整備と住民の安全確保及び安全・安心なまちづくりを確立するための防災ネットワークのモデル事業を推進します。

きらきら２才児・孫親学級

参　考　資　料

1. 藤島地域の地域振興方針（計画策定のイメージ）



２．藤島地域の統計概要

区分		単位	藤島地域	市全体
人　口	H17.10.1 合併時 （住民基本台帳）	人	11,969	143,990
	H30.9.30 （住民基本台帳）	人	10,126 （減少率15.4%）	127,736 （減少率11.3%）
世帯数	H1710.1 （住民基本台帳）	戸	3,067	46,851
	H30.9.30 （住民基本台帳）	戸	3,190 （増加率4.0%）	48,569 （増加率3.7%）
面　積	H30.10.1	㎢	63.22	1,311.51
就業者数	H27国勢調査	人	5,247	64,816
	第1次産業	人	921（17.6%）	6,095（9.4%）
	第2次産業	人	1,521（29.0%）	18,457（28.5%）
	第3次産業	人	2,684（51.2%）	39,089（60.3%）
販売農家数	2015農林業センサス	戸	608	3,838
	専業農家	戸	109（17.9%）	760（19.8%）
	第1種兼業農家	戸	184（30.3%）	912（23.8%）
	第2種兼業農家	戸	315（51.8%）	2,166（56.4%）
販売農家経営 耕地面積	2015農林業センサス	a	356,528 （農家1戸当り586a）	1,630,599 （農家1戸当り424a）
工業事業所数	H26経済センサス −基礎調査	事業所	54	544
商業（卸売業） 事業所数	H26経済センサス −基礎調査	事業所	14	327
商業（小売業） 事業所数	H26経済センサス −基礎調査	事業所	109	1,478
市営住宅	H30.3.31	戸	47	1,079
保育所	H30.4.1	所・人	2所（園児数228）	38所（園児数3,039）
幼稚園 幼保連携型認定こども園	H30.5.1	所・人	1所（園児数25）	10所（園児数906）
小学校	H30.5.1	校・人	3校（児童数471）	26校（児童数5,930）
中学校	H30.5.1	校・人	1校（271）	11校（3,220）
高等学校	H30.5.1	校	1	9
医療施設	H30.3.31	所	5 （病院0） （一般診療所3） （歯科診療所2）	167 （病院7） （一般診療所109） （歯科診療所51）

３．地域別人口推移

（単位：人）

年　次	鶴岡（市街）	鶴岡（郊外）	**藤　島**	羽　黒	櫛　引	朝　日	温　海	計
平成17年	63,208	35,193	**11,969**	9,579	8,376	5,541	10,124	143,990
平成19年	62,843	34,844	**11,791**	9,453	8,260	5,314	9,833	142,338
平成20年	62,414	34,440	**11,657**	9,394	8,166	5,212	9,613	140,896
平成21年	62,119	34,011	**11,565**	9,351	8,062	5,093	9,418	139,619
平成22年	62,030	33,575	**11,465**	9,233	7,982	5,002	9,212	138,499
平成23年	61,948	33,211	**11,329**	9,145	7,914	4,926	8,980	137,453
平成24年	61,819	32,800	**11,137**	9,046	7,783	4,834	8,727	136,146
平成25年	61,984	32,493	**10,999**	8,947	7,699	4,759	8,522	135,403
平成26年	61,556	32,132	**10,847**	8,814	7,605	4,615	8,262	133,831
平成27年	61,153	31,765	**10,696**	8,681	7,480	4,488	8,050	132,313
平成28年	60,643	31,402	**10,516**	8,592	7,437	4,400	7,859	130,849
平成29年	60,247	31,036	**10,373**	8,448	7,316	4,282	7,621	129,323
平成30年	59,778	30,711	**10,176**	8,287	7,206	4,141	7,437	127,736
H17比較	94.60%	87.30%	**85.00%**	86.50%	86.00%	74.70%	73.50%	88.70%

資料：住民基本台帳（H17は10.1現在、他は3.31現在）

４．世帯数・男女別人口推移

（単位：人）

年　次	鶴岡市				藤島地域			
	世帯数	男	女	計	世帯数	男	女	計
平成17年	46,851	68,995	74,995	143,990	3,067	5,720	6,249	11,969
平成26年	48,184	63,656	70,175	133,831	3,173	5,164	5,683	10,847
平成27年	48,293	62,995	69,318	132,313	3,180	5,112	5,584	10,696
平成28年	48,452	62,321	68,528	130,849	3,178	5,033	5,483	10,516
平成29年	48,486	61,642	67,681	129,323	3,172	4,960	5,413	10,373
平成30年	48,569	61,026	66,710	127,736	3,174	4,862	5,314	10,176
H17比較	103.70%	88.40%	89.00%	88.70%	103.50%	85.00%	85.00%	85.00%

資料：住民基本台帳（H17は10.1現在、他は3.31現在）

５．年齢別人口

（単位：人）

年齢	平成17年	平成29年		平成30年	
	鶴岡市	鶴岡市	藤島地域	鶴岡市	藤島地域
0～14歳	19,667	14,963	1,175	14,530	1,126
構成比	13.70%	11.60%	11.30%	11.40%	11.10%
15～64歳	86,459	71,861	5,606	70,242	5,399
構成比	60.00%	55.60%	54.00%	55.00%	53.10%
65歳以上	37,864	42,499	3,592	42,964	3,651
構成比	26.30%	32.90%	34.60%	33.60%	35.90%
計	143,990	129,323	10,373	127,736	10,176

資料：住民基本台帳（H17は10.1現在、他は3.31現在）

６．人口動態の推移（藤島地域）

①自然動態

（単位：人）

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成30年
出生	105	105	90	79	60	49
死亡	131	153	129	144	149	158
増減	▲ 26	▲ 48	▲ 39	▲ 65	▲ 89	▲ 109

資料：住民基本台帳（各年1月～12月）

②社会動態

（単位：人）

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成30年
転入	297	234	249	153	183	180
転出	319	290	311	150	301	356
増減	▲ 22	▲ 56	▲ 62	3	▲ 118	▲ 176

資料：住民基本台帳（各年1月～12月）

７．高齢化率の推移

（単位：人）

		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
鶴岡市全体	総人口 ①	149,509	147,546	142,384	136,623	129,652
	65歳以上人口 ②	30,647	35,020	37,630	39,222	41,303
	高齢化率 ②/①*100	20.5%	23.7%	26.4%	28.7%	31.9%
藤島地域	総人口 ①	12,414	12,294	11,595	11,065	10,216
	65歳以上人口 ②	2,782	3,130	3,232	3,297	3,442
	高齢化率 ②/①*100	22.4%	25.5%	27.9%	29.8%	33.7%

資料：国勢調査

８．地域別出生数の推移

（単位：人）

年（暦年）	鶴岡	**藤島**	羽黒	櫛引	朝日	温海	計
平成7年	973	**105**	99	86	56	84	1,400
平成13年	901	**108**	71	89	32	77	1,278
平成18年	836	**91**	79	58	33	62	1,159
平成21年	734	**84**	69	46	32	49	1,014
平成22年	750	**79**	70	58	26	43	1,023
平成23年	727	**61**	69	51	27	45	980
平成24年	693	**76**	60	41	25	39	934
平成25年	677	**50**	51	51	27	37	893
平成26年	697	**59**	52	45	18	29	900
平成27年	646	**60**	69	52	30	32	889
平成28年	630	**61**	50	44	25	22	832
平成29年	569	**49**	64	59	15	19	775
H7年比較	58.50%	**46.67%**	64.60%	68.60%	26.80%	22.60%	55.40%

資料：住民基本台帳

９．地域別婚姻数の推移

（単位：人）

年（暦年）	鶴岡	**藤島**	羽黒	櫛引	朝日	温海	計
平成7年	489	**60**	41	36	28	45	699
平成13年	532	**69**	47	37	26	46	757
平成18年	429	**51**	37	39	24	27	607
平成21年	413	**46**	46	32	18	32	587
平成22年	404	**46**	37	29	13	24	553
平成23年	385	**42**	30	34	19	24	534
平成24年	389	**29**	36	29	18	22	523
平成25年	333	**32**	32	23	10	20	450
平成26年	368	**32**	44	31	14	14	503
平成27年	385	**42**	27	31	12	21	518
平成28年	359	**31**	29	22	12	23	476
平成29年	338	**36**	28	26	14	23	465
H7年比較	69.10%	**60.00%**	68.30%	72.20%	50.00%	51.10%	66.50%

資料：住民基本台帳

１０．産業別就業者数割合の推移（藤島地域）

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
第1次産業	22.9%	19.5%	19.2%	17.1%	15.2%
第2次産業	39.8%	38.1%	33.8%	32.1%	29.0%
第3次産業	37.2%	42.4%	47.0%	50.7%	51.2%

分類不能の産業があり合計が100%にならない場合がある
資料：国勢調査

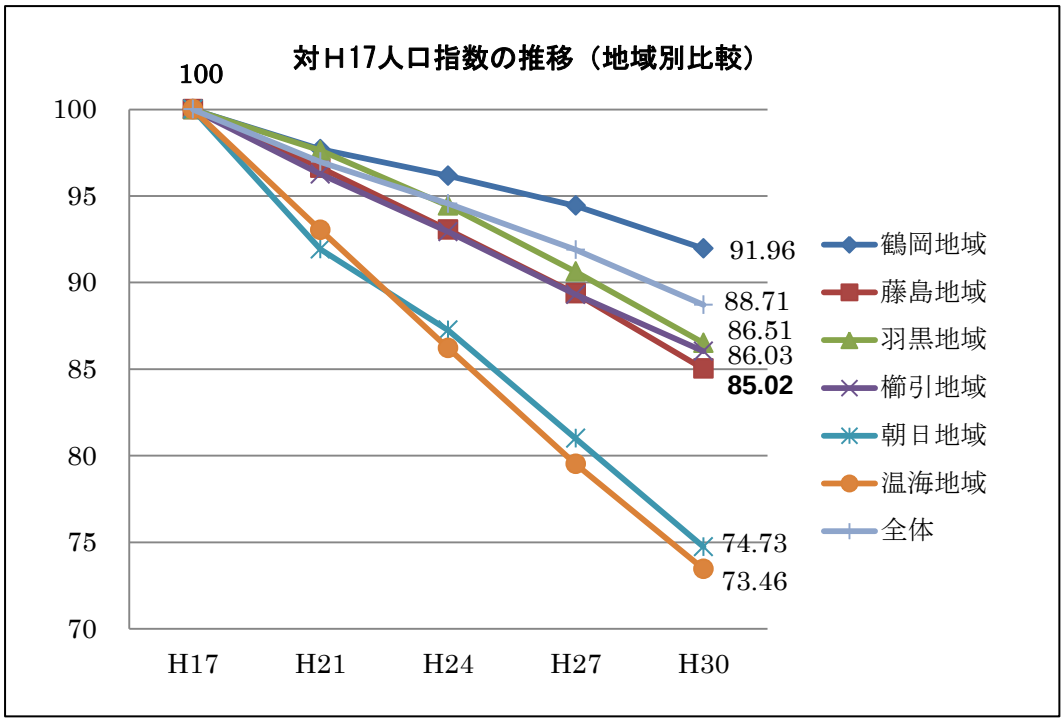
１１．専兼業別販売農家数の推移

（単位：戸）

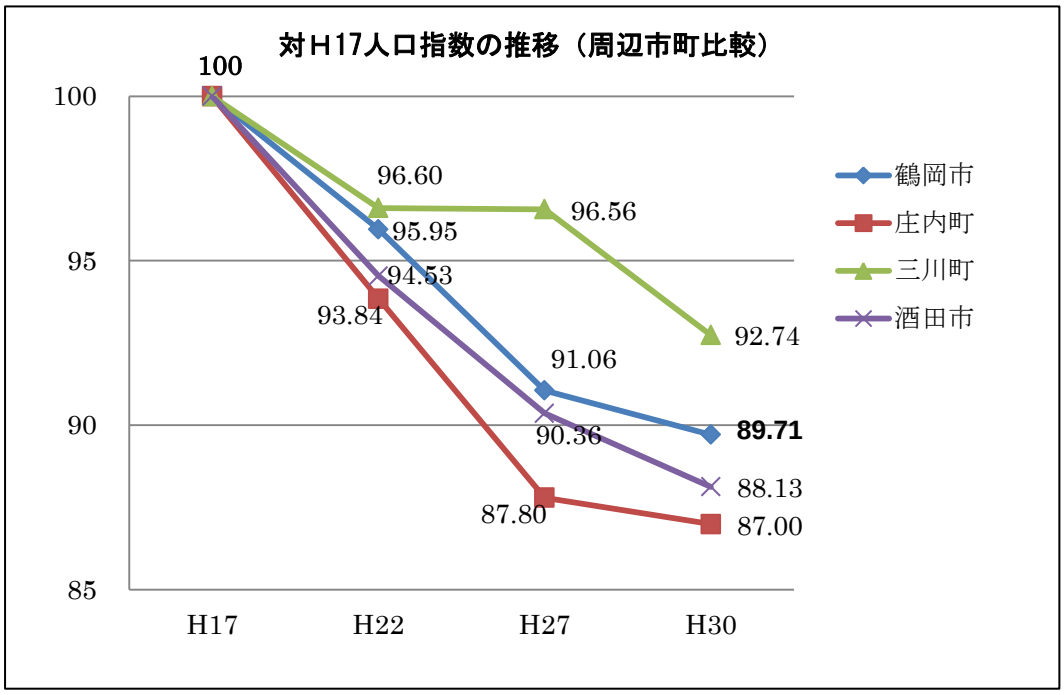
区分		平成12年	平成17年		平成22年		平成27年	
				対H12比		対H12比		対H12比
全国		2,336,909	1,963,424	84.0%	1,631,206	69.8%	1,329,591	56.9%
	専業農家	426,355	443,158	103.9%	451,427	105.9%	442,805	103.9%
	第1種兼業農家	349,685	308,319	88.2%	224,610	64.2%	164,790	47.1%
	第2種兼業農家	1,560,869	1,211,947	77.6%	955,169	61.2%	721,996	46.3%
山形県		56,644	49,013	86.5%	39,112	69.0%	32,355	57.1%
	専業農家	5,428	6,409	118.1%	6,924	127.6%	7,891	145.4%
	第1種兼業農家	13,442	12,547	93.3%	8,942	66.5%	6,743	50.2%
	第2種兼業農家	37,774	30,057	79.6%	23,246	61.5%	17,721	46.9%
鶴岡市全体		6,138	5,444	88.7%	4,538	73.9%	3,838	62.5%
	専業農家	406	463	114.0%	577	142.1%	760	187.2%
	第1種兼業農家	1,689	1,658	98.2%	1,187	70.3%	912	54.0%
	第2種兼業農家	4,043	3,323	82.2%	2,774	68.6%	2,166	53.6%
藤島地域		1,014	892	88.0%	717	70.7%	608	60.0%
	専業農家	56	69	123.2%	70	125.0%	109	194.6%
	第1種兼業農家	365	350	95.9%	254	69.6%	184	50.4%
	第2種兼業農家	593	473	79.8%	393	66.3%	315	53.1%

資料：農林業センサス

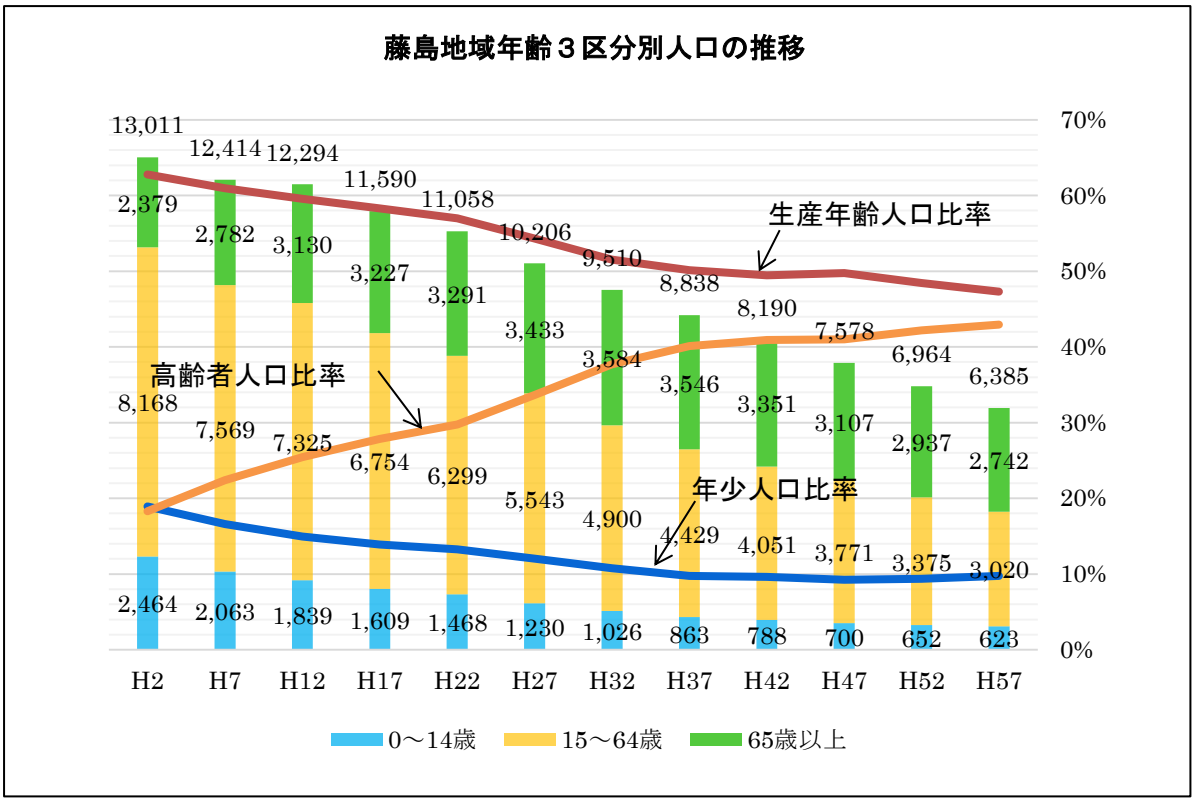
１２．グラフで見る各種データ推移



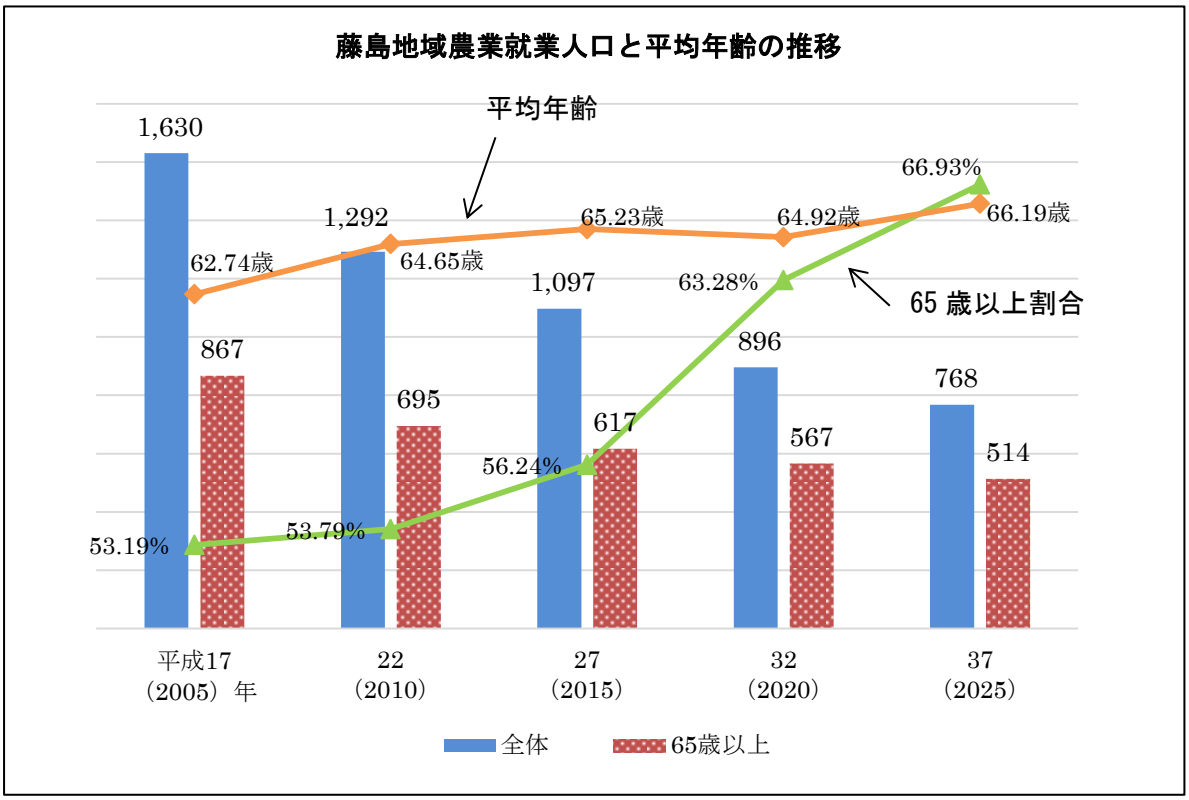
資料：住民基本台帳



資料：～H27 国勢調査、H30 住民基本台帳



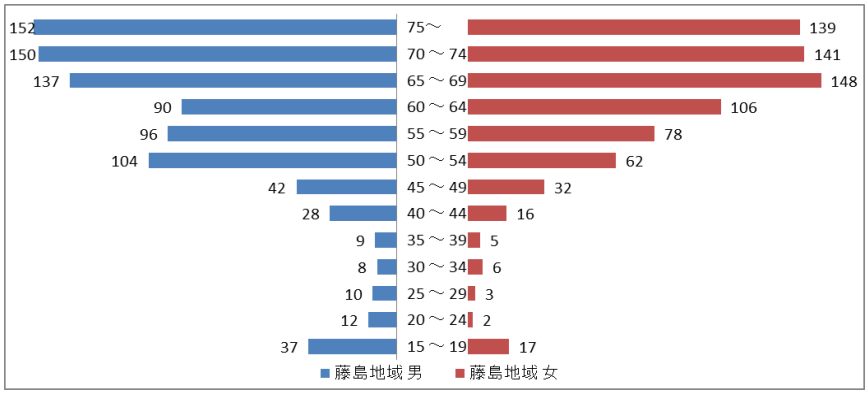
資料：～H27 国勢調査、H32～H57 鶴岡市社人研推計値を準用



資料：H17～H27 農林業センサス、H32～H37 コーホート変化率法に基づく推計

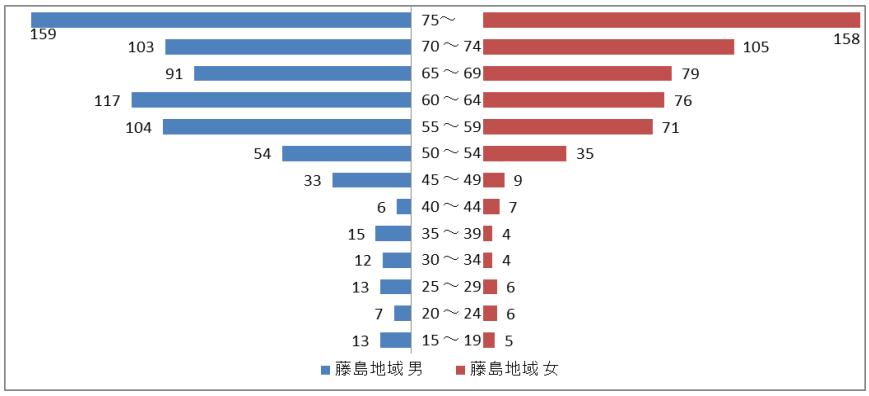
藤島地域年代別農業就業人口の推移

○平成 17 年　年代別農業就業人口



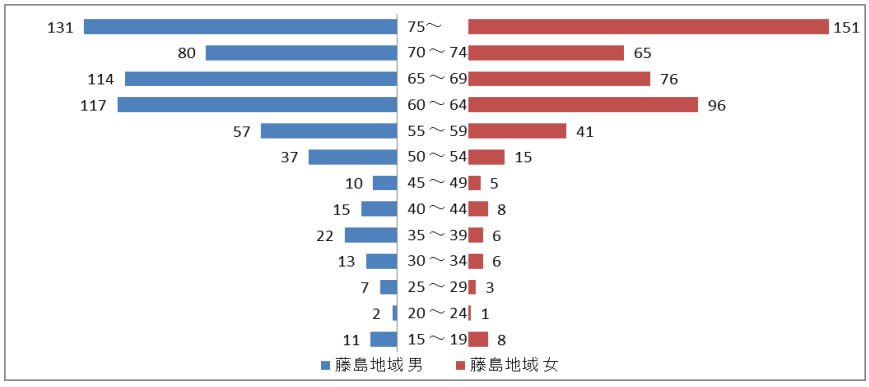
男	875 名
女	755 名
合計	1,630 名

○平成 22 年　年代別農業就業人口



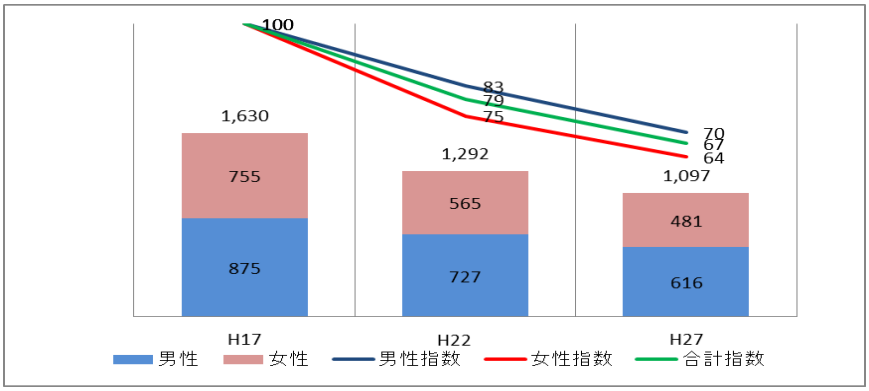
男	727 名
女	565 名
合計	1,292 名

○平成 27 年　年代別農業就業人口



男	616 名
女	481 名
合計	1,097 名

○男女別農業就業人口推移と対 H17 男女別人口指数推移



➢対 H17 増減

・H22　△338 名

・H27　△553 名

資料：農林業センサス

春夏
秋冬

鶴岡市藤島庁舎

藤 島 地 域 振 興 計 画